

# 新型コロナウイルス感染症対応ガイドライン 及び Q&A

令和5年1月17日

## 1 はじめに

2020年より新型コロナウイルス感染症対策会議を開催し、様々な角度から安全・安心を確保した中で、活動が実施できるように検討して参りました。ウイルスの蔓延からおよそ3年余りが経過し、様々な事例が世界中で蓄積され共有されてきています。2021年に我が国でも予防接種が始まりましたが国民全体に行き渡るまでには相当の時間がかかるとともに、現状を踏まえると、引き続きしっかりとした感染予防対策を講じていく必要があります。一方で、スポーツには人々を魅了する様々な力があります。

ミニバレーの理念には「であい・ふれあい・わかちあい」があります。

私たちはこのウイルスと共存する中で安全・安心の確保に努め、ミニバレーを通じてスポーツ文化の持つ力を、競技する人、関わる人、応援する人など多くの人と共有したいと考えます。同時に、感染者に対する差別や偏見を強く排除します。

本ガイドラインは、自分自身の安全、相手選手や運営関係者の安全を守るために、一人一人がガイドラインをしっかりと守る中で安心して競技を楽しむことができるようにご協力をお願い致します。

## 2 事業実施にあたっての基本的な考え方について

- 1, 主催事業（ミニバレー大会）に関しては、選手、大会運営者、審判員、マスコミ関係者等、参加する全ての人が、大会参加日からさかのぼり2週間の検温を毎日実施し、健康であることを自身が明らかにする健康チェックシートを提出した上で参加することを原則とします。
- 2, このガイドラインでは、新型コロナウイルス感染拡大防止が容易ではないという社会情勢の中で、「新しい生活様式」に基づいて、安全・安心にミニバレーができる環境を構築し、スポーツ文化の振興につなげることを目的として作成しております。
- 3, 政府、厚生労働省、文部科学省、スポーツ庁、北海道、各自治体など、定める対策に変更がある場合には、随時更新し速やかに公表します。
- 4, 児童生徒の参加や学校施設設備の使用については、実施地域の各教育委員会や各学校長が定める判断に従うことを基本とします。
- 5, 生命及び健康の安全・安心を最優先に判断します。
  - ・選手、審判、運営者が安全に活動できる環境を作り出します。
  - ・地域の感染状況を踏まえて中止や延期を判断します。
  - ・北海道内各振興局の感染状況も参考にします。

- 6, 不当な扱い・差別・ハラスメント等を排除します。
- ・コロナウイルス感染症に感染したことによる、偏見や誹謗中傷、嫌がらせなど不当な扱いを排除します。
  - ・個人情報の取り扱いに関して十分に配慮します。
- 7, 「新しい日常」「新しい生活様式」への適応を原則とします。
- ・参加者の毎日の検温を徹底します。
  - ・三密（密集・密接・密閉）を避けるなど自己感染を回避します。
    - \*濃厚接触者にならない環境を作る
  - ・ソーシャルディスタンスを踏まえた会場設定をします。
  - ・手洗いの徹底を呼びかけます。
- 8, 感染リスクが高まる5つの場面に気を付けます。
- 場面① 飲酒を伴う懇親会等
- 場面② 大人数や長時間に及ぶ飲食
- 場面③ マスクなしでの会話
- 場面④ 狭い空間での共同生活
- 場面⑤ 居場所の切り替わり
- 9, 対象となる種別、会場施設に応じた対応を検討します。
- 10, 登録した選手が公式戦に参加し、少しでもミニバレーを楽しめる作りのために、参加制限の緩和や交代選手の数、その他様々な仕組みの見直しや柔軟な対応を各大会で期待します。
- 11, 基本的には、以下の3つのポイントで感染予防を徹底します。

#### (1) 感染源

- ① 発熱やかぜ症状など体調不良がある場合には参加しない、会場にも行かないこと
- ② 毎試合前の健康チェックシートの提出で健康状態を確認します。
- ③ 会場に来てから咳やかぜ症状が見られる場合には、参加を見合わせてもらいます。

#### (2) 感染経路

新型コロナウイルス感染症は、一般的に飛沫感染と接触感染で感染します。閉鎖空間の近距離で多くの人と会話するなどの環境では、咳やくしゃみなどの症状がなくても感染を拡大させるリスクがあるとされています。感染経路を断つためには、以下の活動を徹底してもらいます。

- ① 手洗い・咳エチケット・消毒・ソーシャルディスタンス・マスクの着用。

\*ただし、ソーシャルディスタンスが取れる場合には、熱中症予防の観点から、マスクの着用は必ずしも必要ではありません。(声を出したり、話をする時には、マスクをつけましょう)

②ミニバレー活動以外での三密（密集・密接・密閉）に気を付けます。

\*会場までの移動、集合時、試合前後、タイムアウト、話し合う時、試合を待っている時、着替え時、試合終了後

③挨拶などセレモニーの簡略化を実行します。（声を出さない・密にならない・接触しない）

### (3) 抵抗力を高めること

参加者は日常からの起床時間の検温を実施し、自身の平熱を把握するとともに、

①適度な運動 ②バランスのとれた食事 ③十分な睡眠 を心がけてください。

\*試合前後、タイムアウトなどの話し合い時、密にならない、会話をする時にはマスクの着用をお願いします。

12、集団で移動を伴うリーグ戦やトーナメント大会では、マスクの着用、大声を出さない等、感染対策に留意する。

### 3 必ず事前に確認してください

#### 【大会 感染対策担当者用】

帯広ミニバレー協会主催の大会の参加に関しては、全ての人が、参加からさかのぼり2週間の検温を毎日実施し、健康であることを自身が明らかにする健康チェックシートを提出することを原則とします。

#### (1) 大会における感染対策担当者の専任

- ・実行委員（運営責任者）が望ましい（代理可）
- ・都合で担当出来ない日にちや時間帯は代理を配置します。また会場ごとに担当者を配置します
- ・各チームの感染対策担当者を確認し、試合前に感染対策担当者ミーティングを必ず実施します。（間に合わない場合には、チームに代理を要請する

#### (2) 感染対策担当者ミーティングでの健康チェックシートの確認及び4週間の保管

#### 【運営者（大会役員）・審判員・選手】

- ・感染者が後日判明した場合には、帯広ミニバレー協会事務局に速やかに連絡します。
- ・土日同じ大会で連戦などの場合には、前日のシートへの加筆も可とします。
- ・マッチミーティングに合わせて行うなど運営を工夫します。
- ・健康チェックシートが揃わないチームの選手の扱いを事前に決定しておきます。（ぎりぎりに到着する選手など）
- ・2週間の健康状態に問題のない選手が参加する事を原則としていますが、例外については、Q&Aを参考としてください。

#### (3) 感染対策担当者ミーティングでの確認事項

##### ① 健康チェックシートの確認

\*問題がないかを確認します。

→最終的に全チェックシートを感染対策担当者が回収し4週間保管します。

→欄にチェックがある方の取扱いを必要に応じて協議します。

★健康チェックシートの様式は帯広ミニバレー協会のものを使用します。

##### ② 会場の設備等の配慮事項、タイムアウトでのアルコール消毒の確認

##### ③ 会場での配慮すべきことや会場に合わせたレギュレーションの変更等

（アルコール消毒に必要な時間・タイムアウトの時間等）

##### ④ 会場の設置者（会場）とコロナ対策に関わっての事前確認と当日のチェック結果

##### ⑤ 問題点が発生した場合や、後日感染者が判明したときの主催者への報告

##### ⑥ 大会でのセレモニーの確認（試合前後の挨拶等）

(4)

## 【チーム 感染対策担当者用】

帯広ミニバレー協会主催大会への参加に関しては、全ての人が、参加日からさかのぼり2週間の検温を毎日実施し、健康であることを自身が明らかにする健康チェックシートを提出することを原則とします。

- ① 大会ごとに参加選手の当日含む直近2週間の体温を記入した健康チェックシートを当日集め、試合前の決められた時間に提出し感染対策担当者ミーティングに参加します。
  - \* 提出時間に間に合わない選手（ぎりぎりに来る選手など）分の扱いを感染対策担当者ミーティングで事前に決めておきます。
  - \* 土日同じ会場での同じ大会は、土曜日に提出した健康チェックシートへの加筆を可とします。
- ② 風邪の症状（咳・のどの痛み・だるさ・息苦しさ）、嗅覚や味覚の異常、体が重く感じる・疲れやすいなどのある選手は会場に入ることが出来ません。
- ③ 健康チェックシートには常に正しい記載をしてください。（選手へ指導してください）
  - \* 検温を忘れた場合には、記入欄に斜線を引いてください
- ④ チーム内での手洗い（またアルコール消毒）を徹底してください（試合前後・タイムアウト時）
- ⑤ 選手の集合時、試合を待っている間、試合前後やタイムアウトの際にはソーシャルディスタンスを保つよう日頃から心がけてください。
- ⑥ 試合後には、会場から速やかに帰宅させてください。
- ⑦ 選手の試合会場との往復時の感染防止を徹底させてください。
- ⑧ チーム内で感染者が出た場合には保健所の指示に従ってください。（調査に協力する）
- ⑨ 感染者が出た場合は、帯広ミニバレー協会事務局に速やかに報告してください。
- ⑩ 会場や自治体によって、感染対策の対応が異なる場合がありますので、主催者や会場の指示に必ず従ってください。

## 【選手・審判用】

帯広ミニバレー協会主催大会への参加に関しては、全ての人が、参加日からさかのぼり2週間の検温を毎日実施し、健康であることを自身が明らかにする健康チェックシートを提出することを原則とします。

- ① 毎日検温をして、健康チェックシートを試合当日に提出してください。
  - \* 土日同じ会場での同じ大会は、土曜日提出した健康チェックシート」への日曜日の加筆を可とします。(当日の体温をチームや大会の感染対策担当者が記入します)
- ② 風邪の症状(咳・のどの痛み・だるさ・息苦しさ) 嗅覚や味覚の異常、体が重く感じる、疲れやすいなどのある選手や審判員は会場には入ることができません。
- ③ 常に健康チェックシートには正しい記載をしてください。
  - \* 体温を測り忘れた日がある場合には、チェックシートの欄に斜線を入れてください。
- ④ 会場入り口で検温する場合がありますのでご協力をお願いします。
- ⑤ 37.5℃以上の発熱がある方は、いかなる事情でも会場には入れません。
  - \* 37.5℃未満でも、平熱より1℃以上の発熱がある方や風邪の症状がある方も参加や応援を見合わせてください。
- ⑥ マスクの着用をお願いします。
  - \* 熱中症の心配があるときは、2mの距離を取りマスクを取りましょう。
  - \* 開催地域や会場の方針により、又は感染状況が悪化している場合にはマスクの着用をお願いすることがあります。
- ⑦ 試合前、試合後会話をしている時が密になりやすい状況ですので、お互いの距離に気をつけましょう。
- ⑧ 試合前、タイムアウト、試合後には必ず手洗いをするか、アルコールで手指消毒をしてください。
- ⑨ 握手は行わない。
- ⑩ ホイッスルや飲水のためのボトルなどは個人のものを使用します。
- ⑪ 試合後は会場に残らずに速やかに帰宅しましょう。
- ⑫ この環境の中で大会を開催してくれる役員、審判員、相手チームなどに感謝とリスペクト(尊敬)の気持ちをお願いします。

#### 4 各種事業開催・実施時の感染対策防止策について

以下は、国や道の方針に反しないことを前提として、参加者が安全・安心に参加できるよう、事業を開催・実施する主催者が、その運営に当たり留意すべき事項を取りまとめたものです。また、事業の主催者は、以下の内容を踏まえつつ、各事業の特性を勘案して、感染防止のため自らが実施すべき事項や参加者が遵守すべき事項をあらかじめ整理してください。各事項については、チェックリストを適切な場所に掲示するとともに、各事項がきちんと遵守されているか定期的に巡回・確認することにより、事業の主催者だけでなく、参加者を含む関係者全員が感染防止のための意識を持って取り組むことが重要です。

##### (1) 事前の対応

帯広ミニバレー協会は事業実施会場において感染防止対策に向けた準備を行うとともに、参加者に対し、感染防止のために選手・スタッフが遵守すべき事項を明確にして、事前に連絡し協力を求めることが重要です。大会などにおいては、主催者（管理者）及び参加チームが、それぞれ感染対策担当者を設置し、事業の事前、当日、事後にお互いが連絡を取り合える環境を構築してください。

感染対策担当者が中心となって、すべての大会関係者が協力して、チーム関係者のみならず、会場にいる方すべてに対しての安全への配慮（呼びかけ・注意・啓発）を行ってください。

##### (2) 参加者への連絡事項

帯広ミニバレー協会が事業への参加者に対して事前に求める感染拡大防止のための措置として、以下の項目が挙げられます。感染対策担当者は、適切な手段により参加者やチームの感染対策担当者に事前に連絡をとり、以上の項目を伝えてください。また運営に関わる役員、会場スタッフ、ボランティア、メディアその関係者全員に対しても同様に事前に伝達してください。なお、以下の項目の実行が難しいと判断された場合は、事業の開催が許可された状況下であっても、中止・延期を検討頂くようお願いいたします。

##### ① 以下の事項に該当する場合の自主的な参加の見合わせ（イベント等当日に健康チェックシート確認）

- ・体調が良くない場合（例：発熱・咳・咽頭痛・味覚障害・味覚異常などの症状がある場合）
- ・同居家族や身近な人に感染が疑われる方がいる。
- ・過去14日以内に政府から入国制限、入国後の健康観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

##### ② イベント等参加者全員のマスクの着用（熱中症対策が優先される）

③注意事項の遵守

④事業終了後に新型コロナウイルス感染症を発症した場合の速やかな報告

⑤大会期間中に誰とどのくらいの距離で何分くらい話したか、その時にマスクを着用していたかなど、他人との接触状況の記憶（感染発生発覚した際の濃厚接触者の特定に役立ちます）

(3) 会場における感染防止対策

以下の点に留意して会場の設営・運営を行ってください。

① 諸室

大会等で使用する諸室において、以下の対応を行ってください。

・各部屋にアルコール消毒液を設置する。

全てのドア及び窓をあけ、3つの密が発生する環境を阻止し、ドアノブを介した接触感染を防ぎます。

・座席を設置する際に前後左右1.5～m～2m間隔あけお互いが正面に座らないように配慮して設置してください。

②手洗い場所

事業参加者や関係者が手洗いをこまめに行えるよう、以下の対応を行ってください。

・手洗い場にはポンプ型の液体または泡石鹸を用意してください。

・「手洗いは30秒以上」等の掲示をしてください。

・アルコール消毒液を会場の必要箇所に設置してください。

① トイレ

トイレについても感染リスクが比較的高いと考えられることから、以下の対応を行ってください。

・トイレの蓋を閉めてから水を流すようにして下さい。

・手洗い場にはポンプ式の石鹸を用意してください。

・「手洗いは30秒以上」等の掲示をしてください。

② 更衣室・ロッカールーム

更衣室やロッカールームを使用する場合、3つの密が揃うため感染リスクが高くなります。これを踏まえ、更衣室・ロッカールームについて以下の準備を行ってください。

・広さにはゆとりをもたせ、利用者同士が密になる

・ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する利用者の数を制限する、別室を用意するなど措置を講じてください。

・室内又はスペース内で複数の利用者が触れると考えられる場所（ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、椅子等）については使用後消毒してください。

・換気扇を常に回し窓を常時開放して換気を行ってください。

## 【更衣室等利用者の注意事項】

- ・利用者はマスクを着用し、会話を最小限に留める。
- ・利用者はロッカールームの滞在時間を短くするため、着替えに限定する。
- ・利用者はシャワーを交代で利用し、密集を避ける。

### \*参加者が運動・スポーツを行う際の留意点

参加者に対し、以下の留意点や利用者が遵守すべき内容を周知・徹底することが求められます。

#### ① 十分な距離の確保

運動をしていない間も含め、感染予防の観点から周囲の人となるべく距離（2m程度）を開けてください。またマスクをしていない場合には、十分な距離（2m）マスクをしている場合にも最低1mの距離を空けるよう特に注意してください。

#### ②位置取り

移動時やウォーミングアップの際には、可能であれば、並走する、あるいは斜め後方に位置を取る、距離を取るなど工夫してください。

#### ③その他

- ・タオルの共用はしないでください。
- ・ごみは全て持ち帰りください。

#### ④ゴミの廃棄方法

大会会場等で発生したゴミを収集する際は、マスクや手袋を必ず着用してください。ゴミはビニール袋に入れて密閉して縛り、廃棄してください。マスクや手袋をはずした後は、必ず石鹸と流水で手を洗い、手指消毒をしてください。

### \*夏季における熱中症予防に向けた留意点

気温が高くなる夏季においては、各諸室の窓やドアの開放、参加者にマスク着用を義務化することなどにより、熱中症を発症するリスクが高まることから、感染拡大防止に向けた取り組みに併せて熱中症の予防も行う必要があります。（公財）日本スポーツ協会の「スポーツ活動再開時の新型コロナウイルス感染症対策と熱中症予防について」を参照するとともに、政府が示す「新しい生活様式」における熱中症予防のポイントに基づく下記の点などに留意して各種活動を実施してください。

#### ① マスクの着用

マスクの着用時は、マスクを着用していない場合と比べると、心拍数や呼吸数、体感温度の上昇など、身体に負担がかかることがあるため、参加者に対してはこうしたリスクを周知するとともに、こまめな水分補給を心がけることを徹底してください。また、高温や多湿といった環境下では、人と十分な距離が確保できる場合には、マスクを外しても構わない旨アナウンスをしてください。

## ②エアコンの使用について

諸室等においてエアコンを使用する場合も、コロナ対策のためには、冷房時でも窓開放や換気扇によって換気を行う必要があります。換気により室内温度が高くなる場合がありますため、エアコンの温度設定を下げるなどの調整をしてください。

## ③涼しい場所への移動について

参加者に対しては、少しでも体調に異変を感じたら、速やかに涼しい場所に移動するようアナウンスしてください。なお、会場の関係で、医務室等の諸室にすぐに入ることができない場合は、屋外でも日陰や風通しの良い場所への移動を促せるよう事前の準備をしておいてください。

### \*その他

上記全てを実施しても感染リスクをゼロにすることはできません。事業主催者及び参加チームは、その点を理解した上で、各大会等の実施や参加をしていただくとともに、関係者への周知を行ってください。また、特に夏場においては、各諸室の窓、ドアの開放、参加者全員にマスク着用を義務化することにより、熱中症を発症するリスクが高まります。こまめな水分補給を心がけましょう。

## (4) 事後対応

万が一感染が発生した場合に備え、個人情報の取り扱いに十分注意しながら、大会等当日の参加者から取得した書面や健康チェックシートを、保存期間（4週間）を明記した上でチーム感染対策担当者が保存しておいてください。

また、大会終了後に、参加者から新型コロナウイルス感染症を発症したとの報告があった場合や、地域の生活圏において感染拡大の可能性が報告された場合の対応方針について、開催自治体の衛生部局とあらかじめ検討しておく必要があります。

チーム感染対策担当者が、選手からPCR検査で陽性との報告を受けた場合には、所属地区の感染対策担当者、事業主体の感染対策担当者に至急連絡するとともに、相手チームへの連絡を行うこととし所轄の保健所の指示に従って対応してください。その際、個人情報の取り扱いに十分に配慮するとともに、感染者がいじめやハラスメントの対象にならないよう十分な配慮が必要です。

また、事業主体の感染対策担当者は、速やかに帯広ミニバレー協会事務局への報告を行ってください。

## (5) 段階に応じて配慮すべきことが異なる事項があります。別途Q&Aなど資料で確認してください。

## 5 Q&A

### (1) 感染対策担当者について

Q1：大会感染対策担当者はどのような人がなりますか？

A：大会に責任を持てる方を配置してください。具体的には、大会開催の実行委員長などが考えられますが、実行委員でも構いません。また、その大会独自に感染対策担当者を設置するなどの方法も考えられます。大会 感染対策担当者は、当日、他の役職を兼任しても構いません。必ず会場にいることを原則としてください。広域にまたがる場合は、防止策等を会場別作成し、運営責任がどこにあるかを明確にし、用具の調達含め事前確認を行った上で運営してください。(事情があり、当日会場を離れる場合には代理を依頼してください)

Q2：大会感染対策担当者は具体的にどのようなことをするのでしょうか？

A：以下の内容が考えられます。

- ① 参加者の健康チェックシートの回収と内容のチェック、実施後4週間の保管  
(感染者があった場合のチェックシートの協会への提出)
- ② 大会感染対策担当者と両チームの感染対策担当者による事前ミーティングの実施
- ③ 必要な物品や会場表示物の設置
- ④ 感染防止対策の視点から運営者への指示、指導、助言・相談などの活動
- ⑤ 感染者への注意喚起
- ⑥ チェックシートへ正しく記入するよう啓発

\*大会 感染対策担当者はカードホルダーや表示、ビブスの着用など、会場にいる方にわかりやすくすることが望ましいです。

\*広域に実施する場合は、その会場ごとの配慮が必要です。

Q3：チームの感染対策担当者は具体的にどのようなことをするのでしょうか？

A：以下の内容が考えられます。

- ① 日常における選手への情報提供
- ② 日常のチーム活動での3密を避ける、マスクの着用、咳・エチケットの指導
- ③ 試合当日の参加者全員の健康チェックシートの回収と提出、感染対策担当者ミーティングへの出席
- ④ チェックリストに基づいて、試合前、中、後、移動手段、更衣室等利用の注意事項の指導等
- ⑤ チェックシートへ正しく記入するよう指導
- ⑥ 会場にて風邪の症状が見られる自チームの選手に対して帰宅するよう指示する。
- ⑦ チーム内で感染者が出た場合の対応窓口(チーム代表者でも可)

Q4：感染対策担当者は開催要項にどのように記載しますか？

A：開催要項に以下のように記載してください。

- ・本大会は大会期間を通じて感染対策担当者を設置する。選手・審判員・大会運営等係者など会場にいる全ての者は、感染対策担当者の判断・指示に従わなければならない。
- また、試合前に、各チームの感染対策担当者とのミーティングを実施する。

(2) 会場における感染防止対策について

Q1：感染対策で必要な物品はどのようなものがありますか？

A：アルコール消毒液や手洗い場に設置する液体せっけん、必要な各種掲示物、使用後に会場の消毒を求められている場合には、ゴム手袋や消毒液などの物品、体温計などが考えられます。

Q2：会場設置ではどのようなことに気をつけるべきですか？

A：社会的距離の間隔を空ける必要があります。人数の制限や、間隔を取るために必要な椅子の準備（前後・左右の距離）など工夫が必要です。

熱中症予防でマスクを外す場合には、2m以上の間隔を取ってください。

各チームの選手が試合を待っている時間での、社会的距離を取ることへの呼びかけも必要です。

Q3：対策を講じて大会を開催する中で、大会途中に発熱等体調不良の選手、スタッフが1名または複数名発生した場合には、大会を途中で打ち切るなどの判断が必要ですか？

A：まず、事前に提出する健康チェックシートで体調の悪い人が会場にいないことが大前提となっています。体調不良の選手・スタッフが複数名発生した場合には、熱中症や食中毒など新型コロナウイルス感染症以外の原因も考えられます。大会関係者で検討して大会を継続するか打ち切るかの判断をしてください。

Q4：感染不安による出場辞退チームが複数出た場合には、大会実施の可否はどのようにしたら良いでしょうか？

A：新型コロナウイルス感染症に関して、治療薬や治療方法が確立していない現状で不安に感じている方もいるかと思います。大会途中から出場辞退チームが出ることを想定して、主催者側であらかじめ対応を決めておくと良いでしょう。

Q5：感染者が見られない場合でも、健康チェックシートの提出は必要ですか？

A：必ず提出する必要があります。

新型コロナウイルス感染症は、感染してから発症するまでに1～14日（平均5日程度）とのデータがあります。現在、感染者がみられない地域だからといって安心と言い切れるわけではありません。また、万が一感染者が出た場合に、保健所からの求めがあれば健康チェックシートを提出することになりますので、必ず提出させてください。

Q6：現地での検温、体温チェックを行い問題がなければ、競技参加の許可を出すことは可能ですか？

A：上記同様の理由から、過去2週間以内の検温がされていない方の参加はお断りします。

大会役員、審判員も同様に毎日の検温をお願いします。

Q7：何度の発熱があれば試合に出られないのですか？

A：参加者には大会前2週間の起床時体温を記載した健康チェックシートの提出していただきます。起床時体温は一日の中で最も低い体温となります。日中は活動とともに体温がある程度上がりますが、当日の健康状態をもとに各チームで判断してもらいます。ただし、発熱がある状況で参加することは、自他共に全ての参加者を危険にさらすこととなりますので絶対に避けてください。

【以下の方はどんな事情があっても参加できません】

①一日の間で37.5℃以上の熱があった方

\* 37.5℃未満だから参加してもいいという意味ではありませんが平熱が低い方では、37.5℃未満でも平熱より1℃以上高い場合などには控えるべきです。ただし、37.5℃以上は、原因は関係なく出場しない、会場に来ないを徹底するべきです。  
(会場で非接触型体温計で計測した際に37.5℃以上の熱があった方も同様です)

②健康チェックシートに偽りの記載があった方（偽りが判明した場合には社会的責任を伴うことがあります。体温を測り忘れた日は斜線を引いてください。）

③発熱がなくても、健康チェックシートで風邪の症状のチェック項目がある方、

\* ただし、13日～14日前に一度発熱があった場合などは、各ケースで判断し認められる場合もあります。(感染対策担当者ミーティングでの合意のもと)

(例)・期間中の37.5℃未満の発熱で、かつ医師の判断で新型コロナの疑いがないと診断された場合

・大会直前に行ったPCR検査で陰性だった場合

Q8：健康チェックシートの提出を以って、大会への参加を認めることとなるが、14

日前からの起床時体温について、記載のない日があった場合の参加可否の判断について一定の基準を設けなくても良いものでしょうか。その判断を現場に委ねた場合、同一の健康チェックシートであっても、ある会場では認められ、違う会場では認められないなどのトラブルが発生する可能性があるのではないのでしょうか。

A：各会場がある自治体の判断が異なりますし、感染状況や警戒レベル、対象年齢や種別によっても判断が異なることが当然予想されます。それを理解の上参加いただくことが原則となります。トラブルが心配される場合は、大会前のマッチミーティングで趣旨を理解したうえで参加するよう参加チームの共通理解を図ってください。

## 6 試合当日について

### (1) 試合外で

Q1：試合当日に気をつけることはどのようなことですか？

A：会場に到着してから活動が始まるまでの集合状況、更衣室での環境、試合を待っている間、試合終了後、会場から帰宅するまでの間など特に活動場面以外でも社会的距離を特に気を付けてください。特に感染対策担当者の配慮や指示が重要となります。

Q2：試合後の用具の消毒は必要ですか？

A：大会の感染対策担当者の指示に従ってください。ゴミなどは、個人での持ち帰りを徹底してください。

### (2) 試合中に

Q1：タイムアウトが短く、アルコールによる手の消毒の時間が十分でない時はどうしますか？

A：タイムアウトをのばしてください。日程的に難しい場合は、試合時間を短くすることも検討してください。

Q2：審判に質問がある時はどうしたらよいでしょうか？

A：2 m以内に近づくことは、審判を危険にさらす行為ですので、絶対に行うべきではありません。十分に距離をとって質問してください。

かっとなって相手選手に詰め寄る行為や近くで大声を出すような行為も、危険にさらすことになるので絶対にやめるべきです。審判員と近くなった場合には、大声を出さないなど審判への配慮が必要です。

Q3：試合中に相手チームの選手より「〇〇の選手が咳こんでいる」等の発言があった場合どのように対応することが適切ですか？

A：体調不良の方は参加すべきではありません。相手選手のみならず味方選手や審判員に不安を与え続ける中で競技を続行することは避けるべきです。咳が一時的なものではなく続くようであれば、本人やチームの感染対策担当者が責任を持って安全が確認されるまで一時的にその選手がコートから離れるよう促したり、選手交代を検討すべきと考えます。

## 7 感染者が出た場合について

Q1：チーム内から感染者が出た時はどのようにしますか？

A：帯広ミニバレー協会事務局まで速やかに連絡してください。

基本的には、保健所の指示に従って対応することになります。個人情報の取り扱いと人権への配慮に十分に留意してください。

また、発症から14日以内に大会に参加している場合には、大会の感染対策担当者や対戦相手と情報を共有する必要があるでしょう。

Q2：大会14日前から当日までの間に大会関係者や出場チーム・選手・スタッフに感染者（PCR検査等で陽性の判定された者）又は、濃厚接触者（所轄保健所等で認定された者）、が発生した場合、大会における対応はどのようにするべきですか

A：基本的には、所轄保健所の指導に従ってください。大会の中止などの判断をする場合もあると思いますので、関係チームの理解を得ておくべきでしょう。

Q3：感染対策を講じたとしても、感染リスクがゼロになることは考えられないため、万が一、活動を通して、感染者が出た場合には、責任問題となることがありますか？

A：症状出現前から感染力を有するため、感染をゼロにすることは、難しいと考えます。しかし、リスクを低くするため、十分な対策をとる必要があります。それでも感染が生じたとき、感染対策が、社会的にみて不十分と判断されると、責任を問われる場合があると考えられます。感染の状況、対策の方法など、情報をしっかり集めて適切な対応を工夫していくようにしてください。

Q4：大会において新型コロナウイルス感染症が発生した時、会場施設の消毒が必要となる場合の負担はどのようになりますか？

A：消毒の必要性については、保健所からの指導をもとに判断し施設管理者が実施します。施設管理者より相談があった場合は、帯広ミニバレー協会へ相談ください。

## 8 その他

Q1：大会開催にあたり安全に行うための工夫例を教えてください。

A：治療薬やワクチンの開発などが進み、この感染症の流行を抑えることが可能になるまで、今まで行っていたことが同様にできないという状況を踏まえて可能な限りの感染対策を実施した上で参加することが重要です。

- ① 試合前は早くに集まらない、試合後は速やかに帰るようにして、会場にいる人の数を減らすなど、健康に留意する体制を検討しましょう。
- ② 会場の三密を避けるようチーム内でも事前に検討をしましょう。また本部側は関係者のみとしましょう。
- ③ 他人の物に触れないのが原則ですので、自分の物は自分で準備・片付けを行うよう徹底しましょう。
- ④ 大会はコート2面に対し、4チーム（最大6チーム）で行うように検討しましょう。
- ⑤ 運営スタッフの配置も、午前午後で入れ替えたり、十分な休息時間を取り入れるなど工夫し、疲労が蓄積しないよう工夫しましょう。
- ⑥ 試合開始前後のセレモニーを省略するなど運営方法を事前に検討しましょう。
- ⑦ 実施後の十分な栄養・休養・睡眠などを日常から心掛けましょう。